

自然の天国に生きる一年に

常務取締役 編集長 島田 浩



新年あけましておめでとうございます。
昨年皆様には多くのご愛顧を賜り、心より感謝申し上げます。

年の瀬に降った大雪のおかげか、おだやかな2017年の正月を迎えました。

腰までぬかる雪で、川原までたどり着くのを断念した年末でしたが、一度緩んで少し固く締まった年明けの雪原は、歩みを容易にしてくれました。

久しぶりに太陽の光をいっぱい浴びて食べるお昼のひと時は、何とも心地よいものです。

しんと静まった白い冬景色をぼんやり眺めていると、やはりこの自然というものは、そのまま美しく、完璧で、かけがえのない天国として存在しているのだという思いが心に湧いてきます。



昨年また、熊本地震をはじめ多くの自然災害が各地で起こり、収穫を前にした作物を奪われるという苦しみが身近な農家さんをも襲いました。まほろば農園も例外ではありません。それでもやはり、私たちは、この自然なくして存在できず、自然により生かされているのです。

もともと天国であるこの自然界を、生存競争の苦しみの場へと変えてしまったのは、どうしてでしょう。それは、私たちの心や意識のあり方に問題があるのではないかと気づいたのは、まほろばに入社する前の1993年頃のことでした。

それからおよそ四半世紀たって、ようやくわかってきた事があります。それまで私は、人の意識を変えることが大切だと思っていたのですが、それは大きな間違いでした。何よりも変えなければいけなかったのは、誰か他の人ではなく、何より自分自身の思いだったのだと気づいたのです。

年明け、まほろば2Fでも講座を持たれており、長年テニスの指導者として活躍してこられた緒方紀子先生と声を交わしました。先生は、2年前2015年の春、両足大腿骨や尾骶骨を複雑骨折される大事故に遭い、もう二度とコートに戻ることはできないのではないかと、誰もが思うほどでした。しかし、昨夏、何と両足でしっかりとコートに立ち、テニスができたというのです。

事故からわずか1年しかたっていないのに…。

九死に一生を得た先生は、与えられた人生をけっしてあきらめず、愛おしく、たいせつに、感謝と謙虚さと、生きる喜びをいつでも感じさせて下さいます。先日も「人生を楽しみましょう!」と声をかけて頂きました。

誰かや何かを変えようとするよりも、何より自分自身が楽しく、飲んで生きることが大切なのだ、と教えて頂いたように思います。すべての存在は見えない糸でつながっているのですから、実はその方が近道なのかもしれません。たかが72億分の一ですが、確実に一人を含むその周囲は平和になるのです。

もともと天国として作られたこの自然界で、天国暮らしをすること。楽しく、うれしく、幸せに、毎日を感謝とともに、今を、このひと時を生きること。どんな人もかけがえのない人であり、どんな時もかけがえのない時であると、自覚して過ごすこと。それこそ、理想の故郷「まほろば」での暮らし方のように思います。

実際のところ、毎日いろんなことが巻き起こり、つい眉間にしわを立ててしまいますが(苦笑)、今年はぜひそんな一年を送ってみたいと思っています。昨年は、専務の退任(現在は顧問)、社長一家の仁木移転に端を発し、香水「あはれ」と麻墨「玄牝」のパッケージや説明書の制作、麻のイベントへのポスター制作など出展準備、それが終わったと思ったら、醤油「新醬」のピン選定とラベルデザイン、社長の本『続・倭詩』の編集・出版、そのまま年末準備…と、駆け足で息つく間もなく過ぎ去りました。

ことに、専務退任及び仁木農場開設につきましては、お客様へも驚きやご心配をおかけした事と思います。しかし、仁木で生まれた社長の文章には、新たな生命の躍動と輝きが宿り、これからのまほろばの行く先を照らしてくれているように感じています。

今年も皆様の健康や幸せをサポートさせて頂きながら、癒しの場として温かなお店であれます様、スタッフと共に努力してまいりたいと思います。皆様にとりまして、どうか良き一年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞ
宜しくお願い致します。

自分のルーツを調べて…

厚別店店長 穂積 豊仁



新年明けましておめでとうございます。旧年中は、格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。本年も、変わらぬお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

昨年から、まほろばだよりで、大橋しのぶさんが、社長のルーツ案内記を、連載されていますが、それを機に、穂積家の、ルーツを調べてみようと思い立ちました。いろいろと調べていく内に、まほろばに、見えない糸によって、引き寄せられていたのではないかと思われる事実が、浮かび上がって来ました。

皆さん、まほろばという店の名前の由来はご存知でしょうか？

古の人が、最も素晴らしい地、美しい地と、故郷を讃えて形容した言葉で、古事記で倭建命(ヤマトタケルノミコト)が故郷の大和を望んで詠んだ「大和は国のまほろばたたなずく青垣山ごもれる倭しうるわし」そこから来ています。その、倭建命の御妃、弟橘媛(オトタチバナヒメ)が穂積家と深い関りがあったのです。

穂積氏は、大和国山辺郡を本拠地とした有力な豪族で、神武天皇よりも前に大和入りをした饒速日命(ニギハヤヒ)が祖先と伝わり、物部氏族の正統とされています。建忍山垂根(タケオシヤマタリネ)が穂積氏の祖とされていて、その娘が、弟橘媛なのです。倭建命が航海中に、大嵐にあった時に「さねさし相模の小野に燃ゆる火の火中にたちて問いし君はも」と詠んで海へ入り自らの命と引き替えに、荒れ狂う海の神を鎮め、夫の命を救った弟橘媛。無私の行為に心を打たれない人はいないのではないのでしょうか。

正月、大阪へ里帰りの際に、社長の強い勧めもあり、和歌山県の海南市にある、ニギハヤヒを主祭神とし、穂積家のルーツである、藤白神社に初詣に

行ってきました。まず目に飛び込んでくるのが、樹齢千年を超える楠の大木です。五本の太木に囲まれて建っている神社の境内に入ると、何かとても懐かしい気持ちになりました。情緒の核心にふれ、いっそう朝の陽ざしがやわらかく感じました。ああ、今自分が歩んでいる道は、間違っていないんだ、この先には、懐かしき未来があるんだ、そんな気持ちになりました。皆さんも、自分のルーツを調べて、実際に、神社等に触れてみるのも、いいかもしれません。

まほろば厚別店は、今年の八月で開業三十周年になります。これまでたくさんのお客様に支えられてきました。そして、野菜や果物、お米など農産物に真摯に向き合って来られた、生産者の皆様や、各メーカー全ての方々に感謝申し上げたいと思います。お客様の体と心が、生きる喜びに溢れるような、生命力ある食べ物や商品の橋渡しをしていければと思います。

縁あって、集まってきたまほろばスタッフ一同が、お客様ひとりひとりとの縁を大切にしながら、今年一年間がんばっていきたいと思います。自然の恵みに、今日も生かされている喜びを感じながら。



倭建命の御妃、弟橘媛(オトタチバナヒメ)

年賀

